

海外主要農薬メーカーの動向

— 2002 ～ 07 年 —

しげ 谷 成 美

本誌 2002 年 7 月号に海外主要農薬メーカーの動向を
発表したの、それ以降の農薬業界の動きについて再度
まとめた。

なお、会社の吸収・合併に引き続いて品目の買収・売
却がめまぐるしく行われていることに注目されたい。

世界の農薬メーカートップ 20 社の順位は表-1 のと
おりで、かなりの会社名が消え過去のものとなっている。

なお、記事を読むに当たり、下記について留意されたい。

(1) 記載年度は文献に出てきた年であったり、実施
完了の年であったりするので、1 年程度幅のあることを
理解されたい。

(2) 大手の会社についての記載はその農薬部門につ
いてであって、会社全体ではないのでその会社名が現在
も残っている場合がある。

(3) 遺伝子工学利用の種子関係、防疫剤、工業用防
黴剤については原則として省いた。

(4) 会社の動きがわかりやすいように品目の買収・
売却を入れたが、主要品目の日本における登録時期につ
いても一部掲載した。

(5) 薬剤名は一般名をできるだけ記載し、わかりや
すいものとした。薬剤の詳細については SHIBUYA
INDEX — 2007 — を参照されたい。

(6) 要訂正箇所があれば、筆者宛にご連絡下さい。

表-1 Leading Crop Protection Companies in 1980, 1990, 2000 and 2005

Sales Rank	1980	1990	2000	2005 ※※
1	Bayer	※ Ciba Geigy	Syngenta	Bayer
2	※ Ciba Geigy	※ Zeneca (ICI)	Monsanto	Syngenta
3	※ Shell	Bayer	※ Aventis	BASF
4	Monsanto	※ Rhone-Poulenc	BASF	Dow
5	※ Rhone-Poulenc	DuPont	Dow	Monsanto
6	※ Zeneca (ICI)	Dow	Bayer	DuPont
7	BASF	Monsanto	DuPont	Makhteshim-Agan
8	※ Hoechst	※ Hoechst	Sumitomo	Sumitomo
9	※ Eli-Lilly	BASF	Makhteshim-Agan	Nufam
10	DuPont	※ Schering	FMC	Arysta
11	※ Stauffer	※ Sandoz	※ Rohm & Haas	FMC
12	Dow	※ Shell	Nufam	Cheminova
13	※ Union Carbide	※ Cyanamid	Griffin	Nissan
14	※ Cyanamid	Sumitomo	Kumiai	Sipcam
15	FMC	FMC	Sankyo	Ishihara
16	※ Rohm & Haas	※ Rohm & Haas	Hokko	Chemtura
17	Kumiai	Kumiai	Ishihara	Kumiai
18	※ FBC	Sankyo	※ Takeda	UPL
19	※ Schering	Nihon Nohyaku	Nissan	Nippon Soda
20	※ Chevron	Makhteshim-Agan	Nihon Nohyaku	Nihon Nohyaku

Note : ※ : Companies no longer active in the crop protection sector are indicated (Phillips McDougall). ※※ : Agrow P1, No500 July 21th 2006.

ア ン バ ッ ク (米) [親会社はアメリカン・バンガード (米)]

2002 年	アベンティス(仏)より棉落葉剤トリブホスを買収
2002 年	シンジェンタ(スイス)より殺虫剤ベルメトリンを買収 [米国の権利のみ]
2003 年	ベース・インターナショナル(米)を買収
2003 年	シンジェンタ(スイス)より除草剤ノルフルラゾンを買収 [米国の権利のみ]
2003 年	シンジェンタ(スイス)より殺虫剤ジクロロホスを買収 [含防疫剤分野]
2005 年	BASF(独)より有機リン殺虫剤ホレートを買収した [世界で 15 か国以上に登録あり]
2005 年	BASF(独)より麦用除草剤ジフェンゾコートを買収した [米国, カナダの権利] [ACC(米)が 30 年前に開発。2004 年売上げは US\$: 1.5 million]
2006 年	バイエル(独)より殺菌剤トリアジメホンの独占的販売権を獲得した [米国のみで製剤が供給される]
2007 年	↓ BASF(独)より殺虫・殺線虫剤テルブホスを買収 [世界 20 か国に登録あり]

イ サ グ ロ (伊)

2004 年	アグリフォーミュラ(伊)の残されていた株 37%をバイエル(独)より買収し, 100%子会社とした
2004 年	リネア・ベルデ・ピボ(伊) [家庭園芸分野の子会社] をコーラント(伊)に売却
2006 年	子会社イサグロ(日)が水稻除草剤 IR-78-N (オルトスルファミロン+フェントラザミド) の日植調委託試験を開始
2006 年	非農業用除草剤販売の合併会社イサム(伊)の保有株 41%をパートナーであるセマグ(伊)に売却した [2007 年現在 10%のみ保有]
2006 年	シブカム(伊)と合併会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)を設立 [開発力, 販売力, 製剤能力を高めるため]
2006 年	シブカム(伊)の子会社シブカム・アグロ(ブラジル)の 50%を買収した [US\$21.5 million]
2006 年	子会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)がバルベン・インターナショナル(コロンビア) [農薬販売会社] の 75%を買収
2006 年	↓ 子会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)がアグロ・マックス(アルゼンチン) [農薬販売会社] の 51%を買収

F M C (米)

2004 年	日本曹達(日)の殺虫剤アセタミプリドの独占的開発・販売権を入手 [シロアリ, アリ, ゴキブリ等米国の防疫剤分野]
2005 年	石原産業(日)と共同で開発中であった殺菌剤フロニカミドの米国登録が取得された [英, スペイン, ポルトガルで共同開発中]
2006 年	自社除草剤カルフェントラゾン・エチルとの混合剤開発を狙って, ニューファム(豪), ダウ(米), BASF(独)と協調関係を強化
2007 年	↓ 三共アグロ(日)より殺菌剤シメコナゾールの世界的開発, 販売権を得た [除: アジア, 中近東の一部]

ケ ミ ノ バ (デンマーク)

2001 年	ダウ・アグロサイエンス(米)と合併会社パイテック・ケミカル(デンマーク)を設立し, 殺虫剤ガンマシハロトリンを製造 (50 : 50)
2002 年	バイエル(独)より殺虫・殺ダニ剤アクリナトリンとホサロンの欧州の権利を買収
2003 年	バイエル(独)よりフレクサアグリ [仏, ジェネリック品取扱会社] を買収 [→ 2004 年ケミノバ(仏)と改称]
2003 年	グリフィン(米)より殺虫剤マラソンと, パラチオンメチルを買収
2004 年	子会社ヘッドランド・アグロケミカル(英)が, J. V. バレット(英) [防疫剤/木材保護剤会社] の殺そ剤プロマジオロンおよびジフェクナムの販売について独占契約を締結した
2005 年	バイエル(独)より殺虫剤イミダクロプリドの供給を受ける契約を締結した [非独占的実施権]
2005 年	オスプレイ(豪) [2005 年に設立した会社で年間売上高 \$12 million] を買収 (12 月)
2006 年	↓ クロップテック(コロンビア) [販売業者: 2005 年販売高 \$6 million] を買収

ケ ム チ ュ ー ラ (米)

クロンプトン(米) (親会社) / ユニロイヤル(米) [クロンプトンの名が表に出る]

2001 年 ?	マクテシム・アガン(イスラエル)より殺虫剤ノバルロンの米国における独占的実施権を獲得
2002 年	クロンプトン(米) [親会社] が住友化学(日)と協調合意: ①農業用・林業用薬剤の中欧, 東欧, 中央アジア, バルカンでの取扱い, ②住友化学(日)の子会社ケノガード(スペイン)に販売権を授与
2002 年	ユニロイヤル・ケミカル・ホールディングス(米) [持株会社] が, セルティス・ヨーロッパ(蘭)に資本参加 [+ニッソーケミカル(欧州)+セルティス・インターナショナル(ベルギー)]
2004 年	グスタフソン(米) [50%子会社] を親会社クロンプトン(米)が売却したため, グスタフソン(米)はバイエル(独)の 100%子会社となる
2004 年	子会社トレース・ケミカル(米)をバイエル(独)に売却 [→ 2006 年再度買収]
2005 年	呉羽化学(日)と殺菌剤イブコナゾールの共同開発に入った [親会社クロンプトン(米)経由: 北米, 中南米, 欧州の種子消毒分野]
2005 年	クミアイ化学(日)より棉落葉剤フルチアセットメチルの販売権を入手 [米国登録申請中]
2005 年	親会社クロンプトン(米)がグレート・レックス・ケミカル(米) [くん蒸剤メチルプロマイド製造] と合併しケムチューラ(米)となる (7 月 1 日)
↓	

ケムチューラ(米)

2006 年	ケムチューラ・ジャパン(日)が活動を開始 (2 月 1 日)
2006 年	バイエル(独)の子会社トレース・ケミカル(米) [種子処理会社] を買収
2006 年	コーコラン(米)よりタバコ腋芽防除用 PGR のファッティ・アルコールを買収
2006 年	ジェネリック・バージョンの除草剤パラコート・ジクロライド (商品名: ファイヤーストム) の米国登録を取得した
2007 年	↓ クレハ(日)より殺菌剤イブコナゾールの世界的独占販売権を得た [2005 年から共同開発]

ゴ ー ワ ン (米) [親会社はゴーワン・ホールディング(米)]

2002年	ダウ・アグロサイエンス(米)より殺ダニ剤フェナザキン, 殺菌剤フェナリモルを買収
2003年	シンジェンタ(スイス)より除草剤 EPTC の米国, カナダの事業を買収
2004年	モンサント(米)より除草剤トリアレートの事業を買収 [ただし, オーストラリアの権利は 2002 年ニューファム(豪)に売却済]。協調しているマルガリータ・インターナショナル(ポルトガル)と今後販売する
2004年	日産化学(日) [ニッサン・ケミカル・アメリカ(米)経由] と長期協調契約を締結し, 両者製品の販売を行うキャニオン・グループ(米)を設立 [当面はゴーワン(米)の除草剤トリアレートと日産化学(日)の除草剤ハロスルフロメチル, キザロホップ・P・エチル, 殺ダニ剤ピリダベンでスタート] [北米自由貿易協定 (NAFTA) 地域をカバーする]
2006年	シブカム(伊)の 100%子会社サリアフ(伊)の 50%を買収し, 合併会社サリアフ・ゴーワン(伊)を設立した (1月1日)
2006年	アメリカン・パシフィック(米)とメチルプロマイド代替剤アジ化ナトリウムの共同開発に入った

シ ブ カ ム (伊) (1946 年設立)

2002年	バイオテクノロジー BT(伊) [BT および寄生線虫製造会社] を買収 (> 50%)
2005年	三井物産(日)の子会社三井アグロサイエンス・インターナショナル(米)の子会社セルティス(米)と合併会社アドバン(米)を設立した。芝生, 家庭園芸分野に参入するこの会社は両社の米国, メキシコ地域の販売権を引継ぐ [→イネミズゾウムシ用殺虫剤エトフェンブロッグスの販売]
2006年	ゴーワン(米)に子会社サリアフ(伊)の 50%を売却し, 合併会社サリアフ・ゴーワン(伊)を設立した (1月1日)
2006年	子会社アドバン(米) [三井物産(日)との合併会社] がエンゲルハート(米)の害虫忌避および作物保護剤カオリンの販売を北米で引受けることとした [本件はエンゲルハート(米)が BASF(独)に買収される前に実施された]
2006年	イサグロ(伊)と合併会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)を設立 [開発力, 販売力, 製剤能力を高めるため]
2006年	イサグロ(伊)に子会社シブカム・アグロ(ブラジル)の 50%を売却した
2006年	子会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)がバルベン・インターナショナル(コロンビア) [農薬販売会社] の 75%を買収
2006年	子会社イサグロ・シブカム・インターナショナル(伊)がアグロ・マックス(アルゼンチン) [農薬販売会社] の 51%を買収

シ ン ジ ェ ン タ (スイス)

2002年	マクテシム・アガン(イスラエル)に除草剤フルクロリドンを売却
2002年	アンバック(米)に殺虫剤ベルメトリンを売却 [米国の権利]
2003年	アンバック(米)に除草剤ノルフルラゾンを売却 [米国の権利]
2003年	ゴーワン(米)に除草剤 EPTC の米国, カナダの事業を売却
2003年	ニューファム(米)に非農耕地用除草剤ジカンバ, プロジアミンの販売権を供与 [米国のみ]
2003年	アンバック(米)に殺虫剤ジクロロホスを売却 [含防疫剤分野]
2004年	アンバック(米)に殺虫剤テフルトリンのライセンスを与えた
2004年	ニューファム(米)に非農耕地用除草剤ノルフルラゾンの独占的販売権を与えた [米国のみ]
2004年	日産化学(日)に除草剤エスプロカルブ [日本では 3 社 11 製剤あり], ジメタメトリン [6 社 20 製剤] 事業を売却 [日本, 韓国分のみ]
2005年	住友化学(日)より新除草剤 SYN-523 (TH-547) の開発・販売ライセンスを取得
2006年	デュボン(米)の新殺虫剤クロラントラニリブロールと自社品目との混合剤を独占的に開発販売できる権利を得た。一方, デュボン(米)には殺菌剤ピロキシストロビンについて世界的販売権を与えた
2006年	コンラッド・ファファード(米) [家庭園芸・芝用資材メーカー] を買収
2006年	ティラテック(米)より殺虫剤エッセンシャル・オイルに関するライセンスを得た
2007年	ベルシム(ベルギー)に除草剤ピリデートの独占的販売権を与えた [EU 25 か国]

ス コ ッ ツ (米) (芝生・家庭園芸薬剤)

2003年	ヤーテス(豪)の家庭園芸薬/芝生部門を買収 [US\$: 27 million]
2005年	会社名を以下に変更したが, 旧名は子会社に残し, 供給者, 小売, 消費者への業務を実施させることとした

スコッツ・ミラクル・グロウ(米) [スコッツと略称]

2006年	ターフ・シード(米) [芝生の種子会社] を買収
2006年	ティラテック(米)より殺虫剤エッセンシャル・オイルのライセンスを受けた [家庭園芸分野]

ダ ウ ・ ア グ ロ サ イ エ ン ス (米)

2001年	保有していたイサグロ(伊)の 50%の株をイサグロ(伊)に売却した [→イサグロ(伊)100%になる]
2001年	親会社ダウ・ケミカル(米)がユニオン・カーバイド(米) [農薬部門は売却済] と合併
2001年	合併会社ローミッド(米)の残りの 50%の株を BASF(独)より買収して 100%子会社とした
2001年	アスコット(英)を買収 [殺虫剤ベルメトリン, シベルメトリンの製造メーカー] [→子会社ミッチェル・コット(英) (1976 年設立) で製造]
2001年	ケミノバ(デンマーク)と合併会社パイテック・ケミカル(デンマーク)を設立し, 殺虫剤ガンマシハロトリンを製造 (50 : 50)
2003年	UPL(印)に除草剤オリザリンを売却 [除 : EU]
2003年	セプロ(米)に植調剤バクロプロトラゾールを売却
2004年	マクテシム・アガン(イスラエル)に殺虫剤クロルピリホスの米国の独占的販売権を供与 [除 : 50W, 4E 製剤]
2004年	インターファーム(英)に殺菌剤マンコゼブ 3 製剤の独占的販売権を供与
2005年	子会社デノシル(印) [1994 年設立ダウ・エランコ(米)51%] を 100%子会社とする
2005年	マーライオン(シンガポール) [医薬研究会社] と新農薬創成の協調契約に調印 [マーライオン(シンガポール)の持つ天然物をダウ・アグロサイエンス(米)がライセンスする]

2005 年	ウ・アグロサイエンス(米)がスクリーニングする]
2005 年	エクソセクト(英)と2年間の新農薬開発提携契約を結んだ [新農薬および防疫剤]
2005 年	アグロカネショウ(日)に花用殺菌剤アンバムの営業権を譲渡した [ダイセンステンレスの商標を兼商ステンレスに改称]
2005 年	子会社ミッチェル・コット(英)での農薬製造を止めた [殺虫剤ベルメトリン, シベルメトリン]
2006 年	子会社アグロパートナーズ(日)の三菱商事(日)保有株を買収して100%子会社とした (1月6日) →ダウ・アグロサイエンス(日)に併合 (4月1日)
菱商農材(日) (1970年設立)	
2001 年	出資を51%に増加して改称 [ダウ・アグロサイエンス(日)の品目が売上の20%] [三菱商事(日)34%, 大日本インキ(日)11%, 三菱化学(日)4%]
ディーエーエス菱商(日)	
2002 年	ダウ・アグロサイエンス(日)の品目が売上の50%
2003 年	農薬代理店(卸)の全国組織・陶農会を設立 (109社) し, 直販体制を強化
2003 年	資本構成変更: ダウ・アグロサイエンス(米)53%, 三菱商事(日)36%, 大日本インキ(日)11%
2004 年	改称してアグロパートナーズ (1月1日～)
アグロパートナーズ(日)	
2005 年	ダウ・アグロサイエンス(日)の品目は売上の93%を目標 [主要品目: 殺虫剤クロルピリポス, 殺菌剤フェンブコナゾール, 除草剤トリフルラリン, 稲用殺虫・殺菌剤フルサポート (イミダクロプリレファド+スピノサド+トリシクラゾール+チフルザミド)]
2006 年	親会社ダウ・ケミカル(日)が100%子会社とし (1月6日), ダウ・ケミカル(日)のアグロサイエンス部門に統合 (4月1日)
2006 年	住友化学(日)と新規殺虫剤S-1947 (土壌放線菌産生成分で殺虫剤スピノサドタイプ) の共同開発契約を締結 [日本のみ]
2006 年	UPL(印)に除草剤プロパニルを売却 [世界約30か国の権利]
2006 年	デュボン(米)に除草剤アセトクロールを供給することに合意
2006 年	FMC(米)と大豆用除草剤の相互供給に同意 [FMC(米)はスルフエントラゾン, ダウ・アグロサイエンス(米)はクロランスラム]

デュボン (米) (1915年設立)

2002 年	住友化学(日)にベンレート (ベノミル) の日本, 韓国での事業を譲渡
2002 年	日本曹達(日)より導入した殺虫剤アセタミプリドの米国登録を取得 [カナダ, メキシコ, 中米諸国の権利も入手]
2003 年	グリフィン(米) [50%子会社] を100%子会社とする
グリフィン(米)	
2000 年	アベンティス(仏)より除草剤イソプロツロンを買収 [アグレボ(独)の分] [→2002年 CGNS(欧州) [カリOPP(仏), ガールダ(印), ニューファム(豪), スターラー(独)の合併会社で除草剤イソプロツロン事業のみ実施する会社] に売却]
2002 年	クロンプトン(米) [ユニロイヤル(米)の親会社] と協調合意
2003 年	ケミノバ(デンマーク)に殺虫剤マラソンとパラチオンメチルを売却
2003 年	デュボン(米)がさらに出資して100%子会社となる
2004 年	セプロ(米)に芝生, 果樹園, 家庭園芸および水生植物用農薬11品目を売却
	水生植物除草剤 フルリドン/銅 (世界の権利)
	殺藻剤 K-Tea (銅関係剤) (米国の権利)
	殺菌剤 マンコゼブ+水酸化第二銅 (米国の権利)
	家庭園芸用殺菌剤 銅 (米国の権利)
	殺ダニ剤 酸化フェンブタ錫 (米国の権利)
	果樹園用殺菌剤 水酸化第二銅 (米国の権利)
2004 年	マクテシム・アガン(イスラエル)に除草剤リムスフロンの販売権を供与 [英国のみ]
2004 年	ラリス(印)と殺虫剤の販売で協調 [インド市場でデュボン(印)が殺虫剤インドキサカルブを, ラリス(印)がアセタミプリドを相手側に提供する]
2004 年	16.7%資本参加している丸和バイオケミカル(日)と農薬販売の合併会社デュボン・ファーム・ソリューション(日) [デュボン(日)75%: 丸和バイオケミカル(日)25%] を設立し, 統合 (10月1日付) [丸和バイオケミカル(日)は環境, シロアリ駆除, 緑化事業に集中]
2005 年	合併会社デュボン・キムプロム(ロシア)を100%子会社とした [除草剤の製造・輸出]
2005 年	セルティス(米) [三井物産(日)の子会社] の生物殺虫剤 BTK をイタリアで販売することにした
2005 年	シンジェンタ(スイス)の殺菌剤ピコキシトロビンについて世界市場での販売権を得た。一方, 自社の新殺虫剤クロラントラニプロロールについて混合剤の独占の開発・販売権を与えた
2006 年	バイエル(株)より, トウモロコシ用除草剤イソキサフルトールと, その害害軽減剤イソキサジフェン・エチルについて自社除草剤との混合剤を開発・販売できる権利を得た
2006 年	UPL(印)に水稻用除草剤ベンスルフロメチルを売却 [除: アジア]
2006 年	ダウ・アグロサイエンス(米)より除草剤アセトクロールの供給を受けることに同意
2006 年	三井化学(日)より殺菌剤ベンチオピラドの開発・販売権を得た
2007 年	ベラント(米) [住友化学(日)の子会社] より除草剤フルミオキサジンの供給を受けて混合剤の開発をすることにした

ニ ュ ー フ ァ ム (豪) (1957 年設立)

2002 年	エクセル・インダストリーズ(印)に出資 (14%) [→ 2003 年農業部門はエクセル・クロップ・ケア(印)として分離された] [→ 2004 年エクセル・クロップ・ケア(印)の 14%買収完了]
2002 年	モンサント(米)よりオーストラリア、ニュージーランドの除草剤事業を入手
2002 年	オリカ(豪)/インシテック(豪)の合併会社クロップ・ケア・オーストラリア(豪)を買収
2002 年	バイエル(独)より除草剤フェノキサプロップ・P・エチルの販売権を入手
2002 年	CGNS(欧州) [合併会社] を設立 [ガールダ(印), カリオップ(仏), スターラー(独)と共同で除草剤インプロットロンの事業を行う]
2003 年	アグロ・ベルムタドーラ(ポルトガル)を買収し、改称してニューファム(ポルトガル)とした
2003 年	ニューファム(カナダ) [子会社] がバイエル(独)より除草剤トリフルラリンを買収
2003 年	アセト農薬(米)と除草剤 2,4-DB の販売合併会社 SRFA(米)を設立 [マクシテム・アガン(米)より権利取得済]
2003 年	シンジェンタ(米)より非農耕地用除草剤ジカンバ、プロジアミンの販売権を入手 [米国のみ]
2004 年	BASF(独)よりフェノキシ系除草剤 (2,4-D, MCPA, メコプロップ, メコプロップ・P, ジクロロプロップ, ジクロロプロップ・P) 事業 [世界] と殺菌剤 3 種プロクロラズ, スポルタック・アルファ (プロクロラズ+カルベンダジム), フラメンコ・FS (プロクロラズ+フルキンコナゾール) の販売権 [独とオーストラリアのみ] を獲得した
2004 年	シンジェンタ(米)より非農耕地用除草剤ノルフルラゾンの独占的販売権を入手 [米国のみ]
2004 年	BASF(独)よりオーストラリアにおける全農薬の独占的販売権を獲得 (3 月 1 日発効) [除: 種子処理剤]
2004 年	子会社リバデール(米)を改称してニューファム・ターフ(米)とした
2004 年	アグリベック・キミカ(ブラジル) [ジェネリック品取扱会社] を買収 (49.9%) [BASF(独)より購入したフェノキシ除草剤 U-46 (2,4-D) を取扱う予定]
2005 年	子会社ニューターフ(豪) [芝/園芸用農薬取扱] を CK ライフサイエンス(香港)に売却した [\$5.5 million]
2005 年	BASF(独)の麦用除草剤イマザメタベンツの販売権を買収した [除: EU 地域]
2005 年	アグロゲン [→アグロキミコス・ゲネリコス(コロンビア)を買収 [約 10 年前設立。農協系でジェネリック品を供給。年間売上高は \$15 million]
2006 年	子会社ニューファム・アメリカ(米)が BASF(独)より非耕地用除草剤イマザピルの供給を受けることになった
2006 年	ジェネリックバリエーションの殺虫剤イミダクロプリドを米国で販売する準備が整った [農業用は商品名ニューブリッド, 園芸用はマレットで, 原体はエクセル・クロップ・ケア(印)が供給する]
2006 年	マイキャップ(英) [Micro-encapsulation の技術会社] の技術利用のため独占的な評価契約を締結
2006 年	バイエル(独)より, 穀物用除草剤ジフルフェニカンの供給・販売について同意された
2006 年	ニュートリヘルス(豪)を買収
2006 年	アグロゾール(伊)を買収
2006 年	FMC(米)の除草剤 (カルフェントラゾン・エチル) と殺虫剤をカナダで販売する長期契約を締結した
2007 年	ゼージャン・キシナム(中国)より除草剤グリホサートの供給を受けることになった [原体/製剤]
2007 年	FMC(米)と中米における除草剤の販売協力契約を締結した
2007 年	アグリベック・キミカ(ブラジル)の持株 49.9% を 50.1% にアップ

バ イ エ ル (独) (1863 年設立)

2002 年	アリスタ・ライフサイエンス(日)の子会社アーベスタ(米)に新除草剤フルカルバゾンを売却
2002 年	アベンティス(仏)の農業部門と合併し, バイエル・クロップサイエンス(独)に改称 [シェーリング(独)保有株の 24% も買収]
アベンティス(仏)	
2001 年	イサグロ(伊)と合併会社アグリフォーミュラ(伊)を設立 [イサグロ(伊): アベンティス(仏) = 63:37]
2001 年	カリオップ(仏)に殺虫剤クロルメホスを売却
2001 年	マクシテム・アガン(イスラエル)に殺ダニ剤クロフェンテジン, 殺菌剤グアザチンを売却
2001 年	シュウェブダ(独) [→ 2002 年マクシテム・アガン(イスラエル)に買収された] に除草剤ビフェノックスを売却 [除: 日本]
2001 年	アグリファール(ベルギー)に殺菌剤ドジンを売却
2001 年	住友化学(日)に防疫用ビレスロイド系殺虫剤を売却 [子会社アベンティス・エンバイロンメンタル・サイエンス(仏)取扱品]
2002 年	クロラックス(米)よりアリ・ゴキブリ用殺虫剤ヒドラメチルノンを買収
2002 年	バイエル(独)に買収された [シェーリング(独)保有の株 24% もバイエル(独)へ譲渡] [医薬品会社は残ったが, 2004 年サノフィ・サンテラボ(仏)に買収され改称されてサノフィ・アベンティス(仏)になった]

バイエル・クロップサイエンス(独) [バイエルと略称]

2002 年	アンバック(米)に落葉剤トリブホスを売却
2002 年	マクシテム・アガン(イスラエル)に 6 品目売却: 除草剤メタミトロン (欧州のみ), 殺虫剤グチオン (欧州のみ), 除草剤ヘロルド (ジフルフェニカン+フルフェナセット: 独, ベルギーのみ), 殺菌剤バイトン (トリアジメノール+フベリダゾール: 英のみ), 殺虫剤エンドスルファン (ギリシア, ポルトガル), 殺菌剤テブコナゾール (独のみ)
2002 年	S. C. ジョンソン(米)に家庭用殺虫剤事業 [殺虫剤プロボキスル, トランスフルトリン, 忌避剤ディート等を売却]
2002 年	BASF(独)に殺虫剤フィプロニル, エチプロール, 種子殺菌剤 (プロクロラズ, イプロジオン, トリチコナゾール, フルキンコナゾール, ビリメタール) を売却 [一部地域制約あり]
2002 年	ニューファム(豪)に除草剤フェノキサプロップ・P・エチルの販売権を売却
2002 年	マクシテム・アガン(イスラエル)に殺虫剤シフルトリン, ベータ・シフルトリン, オキシジメトン・メチル, 殺線虫剤フェナミホス [欧州の権利] を売却し, 除草剤リニエロン [世界の権利] を売却
2002 年	ケミノバ(デンマーク)に殺虫・殺ダニ剤アクリナトリンとホサロンの欧州の独占的権利を売却
2002 年	スターラー(独)に殺菌剤トリアジメノールの販売権を供与した [独のみ]
2003 年	スターラー(独)に殺ダニ剤フェンピロキシメート [日本農薬(日)の開発品] の販売権を譲渡 [独のみ]

2003年	セルティス・ヨーロッパ(蘭)に除草剤イソキサフルトール〔ベネルクス諸国のみ〕と殺虫剤カルバリル〔仏のみ〕の販売権を譲渡
2003年	シブカム・ファイトヨーロッパ(仏)になめくじ駆除剤チオジカルブを売却
2003年	フィラグロ・フランス(仏)に殺菌剤フルトラニル〔日本農薬(日)の開発品〕、オスカー(フルトラニル+マンコゼブ)の取扱権を譲渡
2003年	日本農薬(日)に非農耕地用除草剤イソウロン〔塩野義製薬(日)が開発→アベンティス・クロップサイエンス・シオノギ(日)→バイエル(日)〕の事業を譲渡
2003年	フレクサグリ(仏)〔ジェネリック品取扱子会社〕をケミノバ(デンマーク)に売却
2004年	子会社グスタフソン(米)〔50%子会社でユニロイヤル(米)も50%〕を100%子会社とする
2004年	トレース・ケミカル(米)〔クロンプトン(米)の子会社〕を買収〔→2006年にケムチューラ(米)に売却〕
2004年	ステラー(独)に除草剤プロボキシカルバゾン・ナトリウム塩の混合剤開発・販売権を供与〔欧州圏内〕
2004年	八洲化学(日)に水稻用新規除草剤ピラクロニルを売却
2004年	アグリフォーミュラ(伊)の持株(37%)をイサグロ(伊)に売却
2004年	子会社ランクセス(独)を設立(7月1日付)〔小企業用品目の供給/サービス用〕〔→2005年グループから離れ独立〕
2004年	ハイクル(印)より中間体を長期輸入する供給契約に調印〔有機燐殺虫剤、尿素系除草剤の製造メーカーで2000年にノバルティス(スイス)のインド工場を買収済〕
2004年	ビーシーエス(日)〔子会社〕を吸収合併
2004年	住友商事(日)に殺菌剤メトミノストロビンの海外開発権を与えた
2004年	マクテシム・アガン(イスラエル)に殺菌剤テブコナゾールの販売権を与えた〔仏、英のみ〕
2005年	マクテシム・アガン(イスラエル)に殺菌剤テブコナゾールの販売権を与えた〔米を追加〕。また殺虫剤イミダクロプリドの供給契約を締結した〔特許切れ対応〕
2005年	ケミノバ(デンマーク)と殺虫剤イミダクロプリドの供給契約を締結〔特許切れ対応〕
2005年	農業製剤工場(スペイン)をIQV(スペイン)に売却〔45,000 m ² プラント〕
2005年	アリスタ・ライフサイエンス(日)に殺ダニ剤アミトラズの世界的販売権を与え、殺菌剤フルオキサストロビンの日、米、カナダでの作物用途分野、および世界のなま、花きなどの非作物分野への独占的販売権を供与した。また殺菌剤テブコナゾールをフルオキサストロビンとの混合剤用への供給(米国のみ)、殺虫剤デルタメトリンの米国での販売権も供与した
2005年	BASF(米)に大豆用殺菌剤テブコナゾールの販売権を供与〔米国のみ〕〔殺菌剤ピラクロストロビンとの混用使用に供するため〕
2005年	住友化学(日)といもち病防除剤イソチアニルを共同開発することに同意した〔世界における販売権〕(2005年6月2日)
2005年	日本農薬(日)と新殺虫剤の共同開発に入った。最初の剤はフルベンジアミド〔Ryanadine receptorsを狙った剤〕〔日本農薬(日)が合成。日本では2000年から委託試験を開始〕
2005年	アリスタ・ライフサイエンス(日)に殺ダニ剤アゾシクロチンを売却〔有機錫剤で世界25か国で登録保有。日本は未登録〕
2005年	アリスタ・ライフサイエンス(日)に殺虫剤プロチオホスの世界的ビジネスを売却
2005年	ベラント(米)〔住友化学(日)の子会社〕に新べと・疫病用殺菌剤フルオピコリドの米国、カナダの独占的開発・販売権を与えた
2006年	子会社トレース・ケミカル(米)〔種子処理会社〕をケムチューラ(米)に売却
2006年	アンバック(米)に殺菌剤トリアジメホンの独占的販売権を与えた〔米国のみで製剤を供給〕
2006年	親会社バイエル(独：医薬品)が医薬品会社シェーリング(独)を買収し、バイエル・シェーリング・ファーマ(独)を設立〔独で1位となる〕
2006年	FMC(米)の新規殺虫剤の開発と商品化を行うことに同意〔将来ロイヤリティーを支払う〕
2006年	エス・ディー・エス・バイオテック(日)に殺虫剤バシレックス(BT剤)〔旧塩野義製薬(日)の開発・販売品目〕を売却
2006年	UPL(印)に殺虫剤オキシジメトン・メチルとトリクロロホンおよび除草剤アシュラムを売却した〔ただし非農薬分野は除く〕〔売却金額\$56 million〕
2006年	ニューファム(豪)と殺虫剤用除草剤ジフルフェニカンの供給・販売契約を締結〔欧州〕
2006年	デュボン(米)に対し、トウモロコシ用除草剤イソキサフルトールとその害害軽減剤イソキサジフェン・エチルを、デュボン(米)の独自除草剤と混合剤を作り販売できる権利を与えた
2006年	ケミノバ(デンマーク)の混合剤開発のため除草剤ジフルフェニカンの供給に同意
2006年	ミレニア(ブラジル)〔マクテシム・アガン(イスラエル)の子会社〕に殺虫剤イミダクロプリドの供給を開始
2007年	ケミノバ(デンマーク)に殺虫・殺ダニ剤アクリナトリンの独占的販売権を与えた〔欧州〕
2007年	プラント・ヘルス・ケアー(米)と生物農薬開発について提携
2007年	マクテシム・アガン(イスラエル)に殺虫剤アジンホス・メチルを売却した

B A S F (独) (1865年設立)

2002年	バイエル(独)より殺虫剤フィプロニル、エチプロロール〔EUのみ〕、殺菌剤プロクロラズ、イプロジオン、トリチコナゾール、フルキンコナゾール、ピリメタニルを買収〔一部地域等制約あり〕
2002年	ブラッテ(米)に殺ダニ剤テブフェンピラド〔アメリカン・サイアナミッド(米)が三菱化成(日)より導入〕の権利を譲渡
2003年	キャラリー・ケミカル(米)〔マイン・セイフェティ・アプライアンス(米)の農業原体製造部門〕を買収〔約\$65 million〕
2003年	UPL(印)に除草剤アシフルオルフェンを売却
2003年	日本曹達(日)より殺虫剤アセタミプリドのペルー、チリでの販売権を獲得
2003年	アグロカネショウ(日)に土壌処理剤ダゾメット、D-D事業を売却(約90億円)
2004年	本社機能を米国から独国へ戻す〔3年で戻した〕
2004年	ニューファム(豪)にフェノキシ系除草剤(2,4-D, MCPA, メコプロップ, メコプロップ-P, ジクロロプロップ, ジクロロプロップ-P)事業〔世界〕と殺菌剤プロクロラズの販売権を供与〔独とオーストリアのみ〕
2004年	ニューファム(豪)に取扱い農薬全体の独占販売権を与えた(3月1日発効)〔除：種子処理剤〕
2004年	日本農薬(日)から新殺虫剤メタフルミゾンの開発権を獲得〔米国の権利のみ〕
2005年	住友商事(日)に殺菌剤トリホリンを売却〔世界の権利〕
2005年	BASF(ブラジル)の職員が農業製造設備を買取り新規農業企業ソルシア(ブラジル)を設立〔農業原体を製造してBASF(独)、ケミノバ(デンマーク)、FMC(米)、クロンプトン(米)等に供給する〕
2005年	バイエル(独)より大豆用殺菌剤テブコナゾールの米国における販売権を獲得〔殺菌剤ピラクロストロビンとの混用剤に供するため〕

2005 年	呉羽化学(日)より大豆用殺菌剤メトコナゾールの米国における販売権を獲得
2005 年	日本曹達(日)に除草剤トブラメゾンの日本の開発権を与えた
2005 年	アンバック(米)に除草剤トブラメゾンの北米の開発・販売権を与えた [→ 2006 年より販売]
2005 年	ニューファム(豪)に麦用除草剤イマザメタベンズの権利を売却した [除: EU 地域]
2005 年	アンバック(米)に殺虫剤ホレートを売却した [世界で 15 か国以上に登録あり]
2006 年	エンゲルハード(米) [作物保護剤カオリンは買収直前にシブカム(伊)へ売却] を買収
2006 年	アンバック(米)に麦用除草剤ジフェンゾコートを売却した [米国, カナダの権利] [ACC(米)が 30 年前に開発。2004 年の売上げは US\$: 1.5 million]
2006 年	ニューファム・アメリカ(米)に非耕地用除草剤イマザピルの供給をすることした
2006 年	100%子会社マイクロフロ(米)をアリスタ・ライフサイエンス(日)に売却
2006 年	アンバック(米)に殺虫・殺線虫剤テルブホスを売却 [世界約 20 か国に登録あり]
2006 年	FMC(米)と販売品目の供給で提携 [FMC(米)より殺虫剤ゼタ・シベルメトリンを, BASF(独)より除草剤ベンディメタリンとイマザピルを]

マ ク テ シ ム ・ ア ガ ン (イスラエル)

2001 年	アベンティス(仏)より殺ダニ剤クロフェンテジン, 殺菌剤グアザチンを買収
2001 年 ?	クロンプトン(米)に殺虫剤ノバルロンの米国における独占的实施権を供与
2002 年	シュウェバダ(独)を買収 [2001 年アベンティス(仏)より除草剤ビフェノックスを買収済]
2002 年	バイエル(独)より 6 品目買収: 除草剤メタミトロン [欧州のみ], 殺虫剤グチオン [欧州のみ], 除草剤ヘロルド [ジフルフェニカン+フルフェナセット: 独, ベルギーのみ], 殺菌剤バイトン [トリアゾメノール+フベリダゾール: 英のみ], 殺虫剤エンドスルファン [ギリシア, ポルトガルのみ], 殺菌剤テブコナゾール [独のみ]
2002 年	バイエル(独)より 5 品目買収: 殺虫剤シフルトリン, ベータシフルトリン, オキシジメトン・メチル, 殺線虫剤フェナミホス [欧州の権利] および除草剤リニユロン [世界の権利]
2004 年	親会社クール・インダストリーズ(イスラエル)が持株の一部を USB 証券(イスラエル)へ売却 [47.7%→ 40.5%となる]
2004 年	デュボ(米)より除草剤リムスルフロンの販売権を入手 [英国のみ]
2004 年	殺虫剤ノバルロンが日本登録を取得 [子会社マガン・ジャパン(日)とエス・ディー・エス・バイオテック(日)の共同開発]
2004 年	ダウ・アグロサイエンス(米)より殺虫剤クロルピリホスの米国における独占の販売権を獲得 [除: 50W, 4E 製剤]
2004 年	ファーム・セーバー(米) [ジェネリック品 10 有効成分を保有するインターネット利用販売会社] を買収 [\$44 million]
2004 年	子会社プロフィコール(コロンビア) (57.5% 保有) [除草剤プロバニノレ製造会社] がライスコ(米)の 50%をグリフィン(米)より買収 [ライスコ(米)は 1997 年セダー・ケミカル(米)とウエストレード(米)の合併会社 (50:50) として誕生。セダー・ケミカル(米)は 2002 年に破産したので, その分がグリフィン(米)に行ったと思われる。よってライコス(米)はプロフィコール(コロンビア)とウエストレード(米)の 50:50 合併会社となった]
2004 年	コントロール・ソリューション(米) [非農業用農薬販売会社] を買収 [45%を \$13.5 million] [→ 3 年以内にさらに 15%買収予定] [→ 2005 年に 60%となる]
2004 年	ファームオズ(豪) [ジェネリック品目取扱い豪州第 4 位の農薬会社] を買収 [100% \$25 million]
2004 年	バイエル(独)より殺菌剤テブコナゾールの販売権を入手 [仏, 英のみ]
2005 年	子会社 MA ホールディング(蘭)がマビノ(蘭) [40 年間ベネルックス・スカンジナビアのディストリビューター] を買収 (49%) [55%までのオプション付] [親会社は AWS ホールディングス(蘭)] (1 月)
2005 年	親会社クール・インダストリーズ(イスラエル)がマクテシム・アガン(イスラエル)の 1,590 万株をメリル・リンチ・インターナショナル(米)へ売却した [Shk 374.4 million = \$86 million] [残ったのは Voting シェア 34.2%]
2005 年	バイエル(独)より殺菌剤テブコナゾールの追加販売権を入手した [米を追加]。また殺虫剤イミダクロプリドの供給を受ける契約を締結した
2005 年	バイオマーク(ハンガリー) [販売業者] を買収 (70%) [1990 年ごろよりマクテシム・アガンのディストリビューター]
2005 年	米国本部をニューヨークからリサーチ・トライアングル・パーク (ノースカロライナ州) へ移した
2005 年	SK(韓) [石油会社] より殺虫・殺ダニ用マシン油 (商品名: EN Spray99) の世界的販売権を獲得した。欧州, 中近東, アフリカ, 中南米は独占的に販売できるもので, 商品名: EOS として販売する
2006 年	エクソセクト(英)の IPM 技術利用について提携した。各地のグループ内会社 (以下) と個々に契約する マクテシム・アガン(イスラエル) マガン(アルゼンチン) ファームオズ(豪) アグロニカ(ニュージーランド)
2006 年	非農業用農薬会社アリゲアー(米)の 30%を買収
2006 年	中国に子会社を設立
2006 年	コーラント(伊) [非農業用農薬扱い会社で 2004 年イサグロ(伊)の子会社リネア・ベルデ・ビボ(伊)を買収済] を買収 (60%)
2006 年	ジェネリック除草剤クレトリジムの登録が取得できたので子会社ファームオズ(豪), アグロニカ(ニュージーランド)で販売する [商品名は前者がブラチナム, 後者がアロー]
2006 年	アグロビタ(チェコ)を買収 [75%]
2006 年	マクテシム・アガン(ロシア)を設立
2006 年	子会社ミレニア(ブラジル)がバイエル(独)より殺虫剤イミダクロプリドの供給を受けることになる
2007 年	バイエル(独)より殺虫剤アジンホス・メチルを買収

モ ン サ ン ト (米)

2002 年	ニューファム(豪)にオーストラリア, ニュージーランドの除草剤事業を譲渡
2002 年	日産化学(日)に日本の除草剤事業を売却 (7 月 1 日) [グリホサート, ブタクロール, アラクロール]
2002 年	ファルマシア(米) [親会社] が株を放出 (60%) し, 独立系企業となる
2004 年	ゴウワン(米)とその協力会社マルガリータ・インターナショナル(ポルトガル)に除草剤トリアレートの事業を売却 [オーストラリアはニューファム(豪)に売却済]
2004 年	子会社モビアグロ(チリ)をアリスタ・ライフサイエンス(日)に売却 [チリ用の除草剤グリホサート, アラクロール, アセトクロ

2004年	ールと種子殺菌剤シルチオファムの供給契約も含む]
2006年	フィラグロ・フランス(仏)に除草剤スルホスルフロンの販売権を与えた [仏のみ]
2006年	デルタ&バイン(米) [大手棉種子会社] を買収 [\$1,500 million] [1998年買収を計画したが、当局の承認遅れで中止]
2006年	子会社モンサント・インドシア(印)は麦の除草剤スルホスルフロン事業を住友化学(日)に売却した
2007年	クロップ・プロテクション(マレーシア)に除草剤グリホサート、アラクロールの独占的販売権を与えた [タイ、ベトナム、マレーシア]

U P L (United Phosphorous Limited) (印) (1969年設立)

前報未記載

1994年	MTM(英)を買収 [\$16 million]
1996年	リサーチ・フミゲーション(米)を買収
1997年	アグロダン(デンマーク)を買収 (60%)
1997年	ゼネカ(英)より除草剤ナプロバミドを買収 [除：北米、日本]
1999年	三井物産(日)と合弁会社 UPL(日)を設立 [UPL(印)90%] [芝用除草剤ナプロバミドの販売から活動スタート]
2003年	BASF(独)より除草剤アシフルオルフェンを買収
2003年	ダウ・アグロサイエンス(米)より除草剤オリザリンを買収 [除：EU、スイス]
2004年	クロップサーブ(南ア) [ザンビア、ジンバブエ、マラウイ、モザンビークでも販売] の19%を買収 [→2006年100%子会社]
2004年	アグリコーラ(英/仏/伊)から除草剤レナシル、クロリダゾンを買収
2004年	子会社 UPL(米)がアグリバリュ(米)を買収 [ジェネリック会社 \$35.8 million]
2004年	殺菌剤マンコゼブの生産能力をアップ [1,800トン→10,000トン]
2005年	日本で芝用除草剤オリザリンの販売開始
2005年	セキッサ(スペイン)を買収した [\$14 million]。スペインでの活動は今までと同じ会社名で継続の予定。これにより海外は18子会社となり、売上げの86%を占める
2005年	SWAL(印) [肥料農薬製造販売会社] [旧シャー・ウォーレス・アグロケミカル(印)] をジャンボグループ(印)より買収した [\$5 million]
2005年	子会社 UPL(英)がレボソ(アルゼンチン) [農薬の製造・販売会社] を買収 [\$11 million]
2006年	バイエル(独)より殺虫剤オキシジメトン・メチルトリクロロホンおよび除草剤アシュラムを買収した [ただし、除草剤の非農業分野は除く] [買収金額 \$56 million]
2006年	石原産業(日)と提携し、三井物産(日)を加えた3社で合弁会社 ISK・インドシア(印)を設立 [農業原体製造を分担]
2006年	クロップサーブ(南ア) [2004年19%買収] を100%子会社とした
2006年	ピラ(南ア) [最大の農薬ディストリビューター：売上 \$40 million] を子会社クロップサーブ(南ア)の傘下に入れた
2006年	デュボン(米)より水稻用除草剤ペンシルフロントメチルを買収 [除：アジア]
2006年	アルケマ(仏)より子会社セレクサアグリ(米)を買収 [100%]

アトケムノースアメリカ(米) / エルフアトケム(仏)

2000年 ↓ アトケムノースアメリカ(米)とエルフアトケム(仏)が合併しアトフィナ(仏)と改称

アトフィナ(仏) [石油会社トタル(仏)が親会社 (→2004年アルケマ(仏)に改称) の化学部門]

2001年 ↓ 農薬部門が独立してセレクサアグリ(米)となる

セレクサアグリ(米) [アルケマ(仏)の子会社]

2004年	タミンゴ(ベルギー)と殺菌剤ジラムの販売・登録維持・製剤改良で協調 [米国内]
2005年	アグロ・ソース(米?)と長期協調契約に調印し、殺菌剤オキシテトラサイクリンとストレプトマイシンの販売を行う
2005年	日本曹達(日)の子会社ニッソー・アメリカ(米)と合弁会社ニッソー・セレクサアグリ(米)を設立 [殺菌剤チオファネートメチル、殺虫剤アセタミプリドおよびセレクサアグリ(米)製品の販売] [→2006年1月1日スタート]
2006年	タミンコ(ベルギー)より土壌くん蒸剤メタム・ナトリウムとメタム・カリウムの米国南東部での独占的販売権を得た [殺菌剤ジラムの販売協調の結果より]
2006年	UPL(印)に買収された
2006年	ダウ・アグロサイエンス(米)より除草剤プロパニルを買収 [約30か国に及ぶ世界の権利]
2006年	日本でくん蒸剤リン化アルミニウム、除草剤アシュラム、殺虫剤トリクロロホンの販売を開始

発生予察情報・特殊報 (19.8.1～8.31)

各都道府県から発表された病害虫発生予察情報のうち、特殊報のみ紹介。発生作物：発生病害虫（発表都道府県）発表月日。都道府県名の後の「初」は当該都道府県で初発生の病害虫。

※詳しくは各県病害虫防除所のホームページまたはJPP-NET (<http://www.jpnp.ne.jp/>) でご確認下さい。

■キク：キク茎えそ病（仮称）（千葉県：8/8

■カキ：カキノヒメヨコバイ（埼玉県：初）8/30

■プラタナス：プラタナスグンバイ（岐阜県：初）8/23